

3・11福島現地闘争へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2016年2月1日

No.358

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

3・11反原発福島行動'16に集まるう!

ストライキで闘う労働組合の力を先頭に、福島の怒りの総力結集で『戦争と原発再稼働の安倍政権を倒せ!』の反撃に立つ、それが5年目の3・11福島現地の闘いです。」

「3・11は原発と核をなくそう、社会を変えていこうと福島の人々が怒りを怒りとして闘う日、全世界と行動を一つにしていく日です。子どもたち、学生、親たち、仮設の住民、農民・漁民、すべての労働者の怒りと思いを一つに結集し、行動する日にしていきましょう!」

(3・11反原発福島行動'16呼びかけ文より)

北朝鮮の核実験とそれにたいするアメリカのB52戦略爆撃機の派遣、米韓の作戦計画「5015」で、朝鮮侵略戦争の情勢が急切迫しています。世界戦争は核戦争です。その中で安倍政権は、戦争・改憲と原発再稼働(核武装)の衝動を強めています。しかし、「3・11」から5年経とうとしても全く収まらない「福島の怒り」を圧殺せずして、安倍政権は核武装をすることはできません。3・11で学生・労働者の怒りを結集し、安倍政権を倒そう。核戦争を阻止しよう。それを実現する力は、階級的労働運動と学生自治会の中にこそあります。国会闘争を牽引し、京大ストライキを打ち抜いた全学連が、福島に登場して闘う学生自治会を再建させよう。そのために3・11反原発福島行動'16に集まろう。



1・30 鈴コン『非正規が闘って、勝った!』出版記念会で斎藤いくま全学連委員長が連帯あいさつ

●福島圧殺許さない!

帰還の強制は被曝の強制だ

安倍政権は九州電力川内原発(鹿児島県)に続き、関西電力高浜原発(福井県)を再稼働させました。さらに、トルコやサウジアラビア、インドへの原発輸出も進めています。安倍にとっては福島原発事故の反省はもうないのか!

福島の非和解的怒りを圧殺するために、支配階級と御用学者が総力を挙げています。全学連へのスパイ攻撃と「監禁致傷」でっち上げ弾圧もその一環です。安倍政権が3月11日までに閣議決定を目指している「東日本大震災からの復興の基本方針」では、2016年以降を

変える力はある! 私たちが歴史を動かす!

3.11反原発福島行動'16

〈日時〉3月11日(金)13時〜 ※12時開場 ※15時デモ出発

〈場所〉郡山市 開成山・野外音楽堂

〈呼びかけ〉3・11反原発福島行動実行委員会

〈メール〉3.11fukushimaaction@gmail.com



「復興の総仕上げ」と位置づけるとしています。その核心は、2017年までの「帰還困難区域」を除く全市町村の帰還決定です（これにより賠償金も住宅支援も打ち切られる）。それに向けて、多額の「復興」予算（潤うのはブルジョアジーばかりだ！）が組まれ、露骨な放射能安全キャンペーンも吹き荒れます。天皇もたびたび来県し、そのたびに「復興」ムード一色になっています。

高線量地帯への帰還は、住民への被曝の強制であり、「復興」に動員される自治体労働者や国鉄労働者、インフラ関係の労働者への被曝労働でもあります。文字通り全国からかき集められた多くの下請労働者、非正規労働者が、低賃金で毎日被曝させられています。無理な行程が優先されて安全対策が後回しにされ、労災事故（死亡事故も！）が後を絶ちません。軽井沢のバス事故と同じです。

小児甲状腺がんの問題も深刻です。福島県と県立医大が行っている調査では、「小児甲状腺がん」および「がんの疑い」と診断された子どもが153人もいます。しかし、福島県当局や安倍政権、そして御用学者らは、「多発ではない」「放射線との影響は考えにくい」としています。子どもの健康よりも原発利権を守る方がそんなに大事なのか！

●日本共産党を打倒する3・11行動

もはや安倍政権のもとでは生きていけない！ しかし、その安倍政権を「左」の側から支えているのが日本共産党を筆頭とする体制内勢力です。

「脱原発の権威」とも言われる福島大の清水修二や、原爆症認定医訴訟などの原告側証人にもなっていたわたり病院の斎藤紀が言っていることは、今や山下俊一と変わらないものです。《被曝限度を下げたら福島全域が住めなくなる、だからある程度の被曝は我慢しろ》という立場です。「脱原発」の立場から《資本のために20ミリシーベルトを受け入れろ》と言っているのです！ これほどの裏切りがあるのでしょうか。彼らは内部被曝を問題にしません。原発再稼働反対、帰還強制反対の福島の

怒りを最後のところでたたきつぶすのは、日本共産党です。3・11反原発福島行動で日本共産党を打倒し、福島の怒りを解き放とう。

●被曝を許さない闘い

福島の怒りは資本主義・新自由主義と絶対非和解の階級的で根底的なものです。

昨年9月に櫛葉（ならは）町の避難指示が解除されましたが、2700世帯のうち町に戻ったのは200世帯にとどまります。多くの県民は、戻らないことを決めているのです。これ自体が帰還強制—原発政策への闘いです。

なによりも、被曝労働を許さない動労水戸の闘いがあります。動労水戸の闘いは、除染労働者や原発労働者を獲得し、愛媛や舞鶴にも拡大しています。

そしてついに、去年は動労福島が結成されました。ふくしま共同診療所とともに、福島の階級的怒りを結集させる軸が立ったのです。

こうした闘いの拠点から国際連帯も確実に広がっています。去年は、ドイツの鉄道労働者がJR郡山工場でビラまきをしました。3・11反原発福島行動には、海外からの賛同も続々寄せられています。

●3・11の闘いで社会を変える！ その力がある！

2016年の3・11反原発福島行動のスローガンは、「変える力はここにある！ 私たちが歴史を動かす！」です。沖縄と並んで安倍政権との激突点である福島において、闘う労働組合と学生運動が存在していることが決定的です。キャンパスで闘う全学連と職場で闘う労働組合が福島に登場し、福島の怒りを解き放とう。3・11反原発福島行動に集まろう！（福島大 F）

【当面する行動方針】

●“戦争と労働法改悪に立ち向かおう！” 2・14国鉄集会

2月14日（日）18時～ すみだ産業会館8階・サンライズホールにて

主催：国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動（国鉄闘争全国運動）

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・判決

3月16日（水）15時半～ 東京高裁822号法廷にて

